

話題が横道にそれましたが、さてトピックの鈴木商店が新店舗落成の移転祝と申しても社員数十名の外、来賓数名を加えた極めてさやかなパーティでした。来賓の中にそのころ流行語の船成金で、堂ビル建築の創設者—恐らく大阪でこれがビルと名のつく嚙矢(こし)？—橋本喜造氏の姿も見えた。

同氏は金子さんを称揚して、徳川三百年の治政の土台を築いた大黒柱、実に大久保彦左みたような人物だ、などとごやかな歓談爆笑の中に時の移るのも忘れる程でありました。その際金子さんが立ち、左の意味の挨拶をせられたのが印象的であった。曰く、今日の鈴木財力を以て、この倉庫を改造した煉瓦造りの建物は、ちと貧弱すぎると恐らくは諸君は内心思っているだろう。然しこれは豊臣秀吉が中国を平定した時の、姫路の白鷺城にも譬(たとえ)るべきもので、天下に号令する本陣の大坂城は追って必ず建てる。況んや鈴木家には淀君ならざる御家様と秀頼ならざる御主人が健在せらるるから諸君は実に泰山の安きにある思いで、更に一層の奮励努力を希望すると。

以上の言葉から金子さんの面目躍如、よく平素口にされた、嶋を負う虎の如き闘魂の逞しきから躍動するイメージの片鱗の閃めきが窺われるではありませんか。

このエピソードを、夫人に告げると感肝の後、額(ひたい)をくもらせて言うのに、その倉庫を改造した店舗は家相によくはないですよと。そのころ鈴木は文字通り、三井と天下に鎬(しのぎ)を削り全く旭日昇天の勢で大活躍をしていた最中ですからそのような非科学的なご幣かつぎの話など到底耳に入るものですか、唯黙殺一笑に附してその場は過ぎ去ったのでした。

爾来歲月滔々、遂に夫人観相の杞憂が愈々現実の姿となって我々に襲(おそおい)かかってくる日がやって来た。時は昭和二年四月二日、晴天の霹靂(へきれき)として営業閉鎖、モラトリアム実施の飛電が、一斉に内外に轟きわたった。この知らせを海外にて手にした筆者は真に茫然自失、万感交々の体で往時を回顧、夫人の言を

り尽して仕舞うと云う悲惨な目に会いたり。

それより先江戸にては兄の文治郎が矢張り菓子屋をやり、兄弟争い絶えず、依って岩治郎は長崎にて習い得た商売を神戸でやるとして一切兄にその商売を譲りて出陣せしものなり。

江戸より一緒に長崎に行くべく出た一人が金蔵と申し、下関にて江戸の金蔵と云う。即ち江戸金と銘を打ち煎餅屋を開き、亀の甲形の煎餅を売り出したのがトントン拍子に繁昌し、現在その家号を以て隆々たるもの、昔日を思い出せば、岩治郎、金蔵の友人同志の浪々生活、之れ運命とも申すべきか、岩治郎氏は斯の如く幼時より不遇苦勞して神戸に來り、煎餅屋を営まんとせしも同業者の怒りにて果し得ず、当時下宿をしていた家の女主人(柳田富士松氏実母)は、下宿代を払えぬ一策として何か金儲けをさすべく八方に就職を探した結果、大阪の松原恒七(辰巳屋・柳田富士松氏実父)が砂糖の商売をして居たので、そこへ奉公に出した処、先に長崎にて菓子屋に奉公せる時砂糖に就いて幾分の経験あり砂糖の見分け良否、砂糖産地の知識もあり、砂糖の商売の小僧としては素養があることとて、主人の気受けもよく段々に見込まれ出世の糸口となつたのである。十八才の時姫路西田仲右衛門の妹ひさを嫁に貰い、辰巳屋の神戸店の暖簾を分けて貰って砂糖の外に数種の商売を始めるようになったのである。ひさとは今のよね未亡人なり。

かくの如く辛酸を嘗めたる岩治郎氏は計数の事も一倍明るく、昼夜の区別なく立働き続けたり。その店へ土佐よりはるばる奉公に來たのが金子氏なり。最初は主人もなかなかきつ、午前中は居留地辺の商館廻りをし、帰えりては帳面付けをしたり、夜は九時、十時迄も立ち働きたり。或る時今日は何程儲けたりと金子氏に問われ、二千円位は儲けたりと云うと、二、三日過ると又幾程儲けたりやと聞かす。五千円八千円と申すと、帳面は御自身が見ていて、おまえは嘘を云うとて大いに叱られ、度々の事にて帳面上と合わぬ故、それはおまえにその金を貸したことにするからそれを出せ、返せと申さる。少々無理な注文故帳面と合わぬのなら金と帳面全部

追跡して世の中には理屈で到底割り切れぬ不可思議のアルファの世界が、形而下にあることを否定できないものつくづく感じたことであった。終りに当時感慨の駄句を添えてむすびとする。

鯛(ひぐらし)や 空(うつろ)となりし樹の枝に咲き終えて  
朝顔の鉢 札寂し

## 鈴木家由来の事

昭和七年二月十六日の夜元町玉壽しにて  
金子様より直接承る

岡 清一

先代鈴木岩治郎氏は、武州川越藩主の末藩にして、文治郎、岩治郎、徳蔵の三人兄弟の一人、家計不如意の為兄弟三人共幼少の頃より奉公に出され、兄弟の顔すら判然たらざるの様に誠不遇の境地にあり。其の二番目岩治郎は二、三の奉公先を転々して後、長崎が菓子の本場と聞きし為、菓子製造の見習をせんと志して、旅程順序として江戸を出て、神戸、多度津、下関、門司を経て長崎に至る。先づ神戸に友達と共に來り、或る菓子屋に奉公勤めをして旅費を稼ぎ、多度津、下関、門司、何れも数ヶ月程出先で奉公稼ぎして漸く長崎に着き、幾月か菓子の製造を見習い、再び元の順路を経て神戸迄來りし時、何となしに神戸が開港場にならんとする時にて有望らしく未練のこし、為め一層の事江戸に帰るを止め、神戸に留まりてこの習い得た商売をやって見ぬの一念から、元町辺の菓子屋(亀井堂煎餅屋)に一時身を寄せ、商売道具の取り寄せに一旦江戸に歸り、再び來神して來れば、元の店主が大いに怒り、同じ商売せんが為に斯様な考えを以て來るとは怪しからぬと断られ、そうする内に身病氣に罹り、一旦取り寄せたる諸道具は一ツ一ツと売

を私に任して貰い度いと云うと、それはよからうとて帳面を引受ける事にすると、他の同僚は承知せず、そんな事を引受けるとは独断で怪しからぬと云い、物干台会議で中に挟まれ困つたが、その儲けた金と云うのはひさ夫人が或る易者に見て貰うと、その金は外になく内にある。そして一万円はあるとの告げであるから、これはテッキリ金子が盗んで居るものと目を附けられたのである。斯様にひさ夫人は易者に見て貰い迷う事が多かつた人である。然しひさ夫人も主人が余りキツイので声を上げて泣き出される事は屢々あった。或る時今の(栄町三丁目)の店の小使部屋が当時樟脳蔵で一ぱい樟脳が入っておった。主人は或る者に金子は樟脳の空箱を売って私服を肥やしていると(当時は空箱一個が二錢位で売れていた)知られ、呼ばれて大いに怒られたが、そんなよこしまな事をして居らぬので、或る日、商館廻りを谷治之助君の養父と一緒に廻って居たが、二人相談の上、今日帰ったら主人が余り無茶な事を云うので主人をやっつけてやろうと相談纏まり帰つた処、豈はからんや主人が脳溢血で倒れ、大騒ぎしている処であった。

後から思うと若し斯様でなかつたら或は二人で主人をやっつけて居つたかも知れない。ア脳溢血であったのでやっつけて居らなかつたのが幸であった。度々主人が無理を云うので盗んだと思ひ込まれて居る二千円も、何とかして儲けてそれを投げつけて土佐へ帰つてやろうと思つた事が何度あったか知れない。斯様に主人公は無茶な事を平気で云う人であった。然しなかなか働く人で余り働き過ぎて神経が高いので、或る日曜日何処か散歩にでも出掛けたらと勧めると、舞子迄行くと出掛けて中途引返して來ると云う始末であった。

その脳溢血の大騒ぎで、当時現主人の岩治郎氏が大阪藤田助七商店へ小僧見習にやつて居たのを呼び戻したときが十二、三才の頃であった。その先代岩治郎氏とひさ夫人の間に徳治郎、米太郎、岩蔵の三人あった。二番目の米太郎は早く夭折したがえらい子供さんであった。徳治郎が先代岩治郎を襲名して母たる未亡人ひさ即ちよね

葉たばこ・製品たばこの輸出入

## 米星煙草貿易株式会社

取締役社長 星子大

東京都中央区日本橋江戸橋3ノ6  
(岩井ビル)  
電話 東京 (272) 2861~3

### 営業品目

重ね板ばね・コイルばね・線  
薄板ばね・シートばね・特殊ばね  
パイプハンガー・ウレタン製品  
その他安全公害関係機器

## 日本発条株式会社

取締役会長 坂本 壽  
取締役社長 藤岡 清俊

本社 横浜市磯子区磯子町1番地  
支店 東京・大阪・名古屋・広島・太田  
工場 横浜・川崎・厚木・伊那・名古屋・広島・太田

### 鈴木商店職員の動勢

昭和六年六月十日調

岡 清一

一、全盛時代大正八年人員	三、〇〇〇	此ノ三千人トハ本社並ニ直系事業所及分身会社ニ於ケル人員ヲ云フ
二、発表時休業ノ昭和二年四月三日現在	一、三〇〇	但シ工場内ニ於ケル職工ハ含まズ
三、右同日現在ニ於テ会社ト運命ヲ共ニシノ職ヲ離レタルモ残務整理員	八二七	此ノ中ニハ支店出張所、工場限リノ備人(西洋人モ含ム)ヲ算入ス
他ニ就職セシ者	五六一	鈴木合名、株式鈴木、長府土地支那樟腦、南朝鮮製紙、大邱線棉、日本商業
死入家不無自	一〇四	昭和六年六月一日現在
亡者居明職營	八二七	店員格
	一〇四	備人格
	四二八	備人格
	三九一	一八
	七〇六	三〇〇

夫人が主人の跡を守り相変ず商売をするようになった。徳治郎は子供の時から賭博めいたことが好きであった。十二、三才で相場に興味を持ち株の買入など独断でやるなどあきれられるほどであった。年が行くにつれ、品行面白くなく一度香港へ遣ったが却ってよいことを見習って帰らず一層よくないので、これは遠い処へ修養旁々送るがよいと自分が発案して、英京倫敦へ送り日向利兵衛を監督者として附けた。然し持って生れた性質はなかなかおらぬので皆が持て余したのである。段々酒と女に手を出し仕末におえぬ事となった。これが一苦勞であった。又岩蔵も兄に負けない性質で困ったのでこれは米国へやった。この時西川玉之助が随行した。  
(原文のまま)

当社は交通安全に寄与する  
照明器具と車輛関係の特殊  
ばねの製造メーカーです

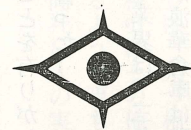
## 横浜機工株式会社

代表取締役 坂本 壽

〒 236 横浜市金沢区谷津町12番地  
電話 横浜 045 (781) 2701

### 〔主要営業品目〕

鉄鋼製品・原材料・銅  
アルミ及び合金製品  
素材・産業機械・建設機械  
溶接機材・その他



## 神鋼商事株式会社

取締役社長 石川 孝一

本社 大阪市東区北浜3丁目5番地  
(大阪神鋼ビル)  
電話 大阪 (06) 202-2231



## 日本精化株式会社

(旧社名 日本樟腦株式会社)

取締役社長 和井田統一郎

神戸市東灘区本山南町  
四丁目四番二六号

電話神戸 (078) 451-3981(代)

繊維機械・工作機械・油圧機械  
航空器部品・省力機械

## 帝人製機株式会社

取締役社長 鷺田 勇

大阪市東区北浜3丁目7の3(広銀ビル)  
電話大阪 (06) 202-0371(代)